

季節調整値の改訂について

毎月勤労統計調査全国調査の平成25年1月分速報発表に併せて、季節調整値を過去に遡って改訂した。

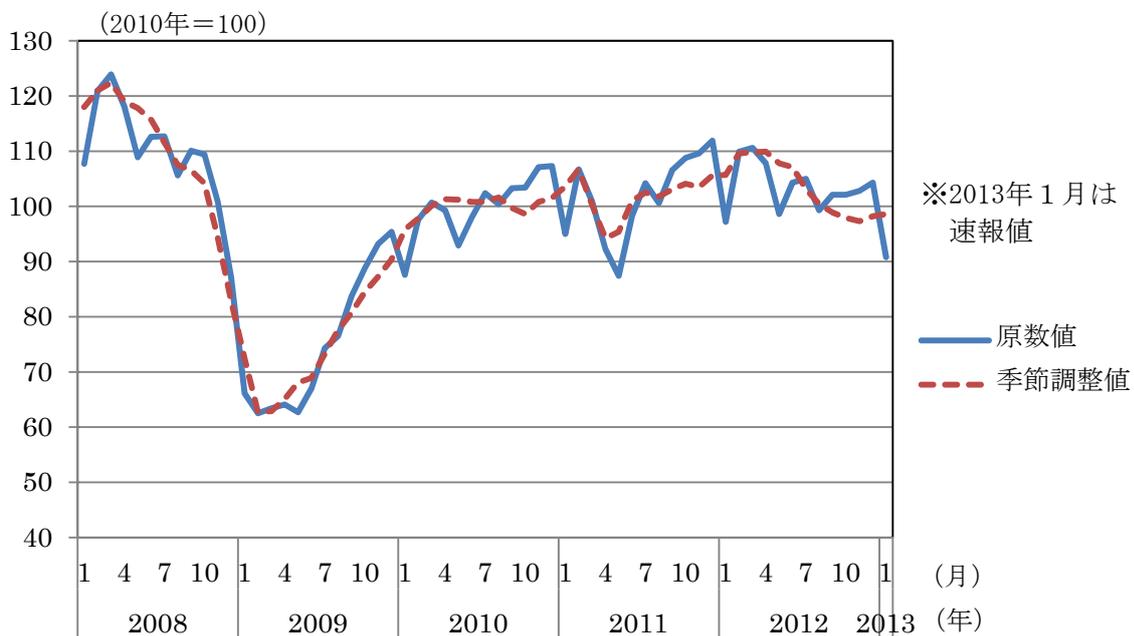
1 季節調整とは

雇用や労働時間などが前月と比べて増えたか減ったかをみるとき、それが例年のパターンなのか経済実態を反映した傾向なのかを見分ける必要がある。

例えば、製造業の所定外労働時間は、休みが多い1月や5月に少なく、秋口から年末にかけて多いというパターンが例年みられる。季節調整値とは、このような例年のパターンを取除いて、本当の傾向を見やすくした指標のことである(図表)。

季節調整には、絶対唯一の正しい方法があるわけではない。日本やアメリカの官庁統計では、アメリカの商務省センサス局が開発した X-12-ARIMA という方法が多く採用されている。ヨーロッパでは、X-12-ARIMA とともに、TRAMO-SEATS という方法も普及している。

図表 原数値と季節調整値(製造業所定外労働時間指数)



2 毎月勤労統計調査の季節調整

毎月勤労統計調査全国調査では、雇用指数、労働時間指数、賃金指数などの主要なものについて、原数値と併せて、X-12-ARIMA による季節調整値も公表している。X-12-ARIMA にもいくつかのオプションがあるが、そのうちの「X-11 デフォルト」と呼ばれるオプションを用いている。

取り除くべき例年のパターンのことを「季節要素」という。この季節要素は、毎年、12月までの1年分のデータが揃うたびに再計算している。その結果、毎年1月分の速報が発表される時期に、季節調整値が過去すべての期間にわたって改訂される。